

道連ニュース

2015年4月号 No.106

北海道生活協同組合連合会

〒003-0803 札幌市白石区菊水3条4丁目1-3

全労済北海道会館内

TEL 011-841-8601 FAX 011-841-8605

URL: <http://www.doren.coop>

～ TPP 北海道集會に1500人参加～

3月22日(日)午後6時から、札幌市民ホールに於いて、「TPPから命と暮らしを守ろう！北海道緊急大集會」が開かれ、日曜日の夜にも関わらず全道から、TPPに反対する大勢の人たちが集まり、立ち見席も出るほどの集會となりました。

集會は、JA北海道中央会飛田会長の主催者挨拶で始まり、来賓挨拶は北海道消費者協会桑原副会長、道医師会長瀬会長、北海道高橋知事の代読の三方からありました。

次に、基調講演として孫崎進氏の「格差を生むTPPの正体」と題する熱のこもったお話しを受けて、ジャーナリストの久保徳二氏のコーディネートによるパネルディスカッションが行われました。

基調講演とパネルディスカッションを通じてTPP

の正体に迫る内容、①国の主権が侵害される②米国とカナダ・メキシコの二国間協議の事例からTPPのISD条項は、行政・政府・裁判所より上位概念となっている事③TPPの最大の狙いは医療問題である事④日本では経済的理由で病院にいけない人はごく少数だが、米国では1/3の人が経済的理由で病院に行けず、家計破綻の62%は高額な医療費負担となっている等TPPの本質に迫る、報告と論議が行われました。

集會は、最後に集會決議（道連ホームページに掲載）を採決して終了しましたのでご報告します。



北海道大学生協

北大生の生活実態調査の件

毎年秋に、北大生協を含む全国の大学生協が学生生活実態調査を行っています。

2014年度調査結果の特徴的な点をご報告いたします。

・北大生の収入・支出

2007年のリーマンショック以降、学生の収入・支出の減少傾向が続いています。2012年には一部持ち直したものの、再び減少に転じています。暮らしの中で日常生活「気にかかること」で4割近く（38.4%）の学生から「生活費」という回答があり、生活費の問題が切実な状況が想定できます。

自宅外生の収入では、親からの仕送り平均額が79,800円（2007年89,250円）で、2013年と比較して約3,650円増加しました。それに対して、アルバイト収入は2013年と比較して約890円減少して、17,160円となりました。そのアルバイト収入を、生活の維持、サークルの費用や貯金をして特別費用に（各種スクール、免許取得等）に充てている状況が想定できます。

・食事

昨年までは節約傾向が続いていましたが、2014年の調査では、2013年と比較して、5,270円増加して、25,120円（2007年25,980円）となり、6年ぶりにほ

ぼ2007年以前の水準に戻りました。

・対人関係

日常生活で気にかかっている点で、「対人関係がうまくいかない」が全国平均（9.1%）を上回りました（13.6%）。前年比較で約5%上昇しており、また、2000年以降、最大の割合になっています。大学生活の重点でも、サークルや趣味を大事にする方が年々増える一方で、豊かな人間関係をあげる方は年々減少しています。昨今対人関係が希薄になりつつあること、同時にどうやって対人関係を築いていけばよいか悩んでいる方も少なからずいることが想定されます。

仕送り額等前年と比較して増加している点もあり、景気回復の一端を垣間見ることがもできます。さらに大学への満足度は9割以上の方が「満足している」「充実している」と答えており、充実した大学生活を送っている一方で対人関係で悩んでいる学生もいることが分かりました。

詳しくは URL: <http://www.univcoop.or.jp/press/life/report.html> をご覧ください。

地域包括ケアを考える集い

2015 in 札幌 開催報告

実行委員会事務局

3月29日(日)北海道クリスチャンセンターホールにて、「地域包括ケアを考える集い」が、開催されました。年明け、ワーカーズコープ札幌、北海道高齢シニアワークの会がコープくらしの助け合いの会の中川代表に声かけしたのを皮切りに、北海道ワーカーズ・コレクティブ連絡協議会を訪問し、「総力でとり組む」旨の心強い賛意を頂いてから実行委員会づくりが本格的になりました。加えて、札幌市社会福祉協議会の渡部介護事業本部長がコメンテーターを受けていただく



こととなり、内容が重厚になる条件も整いました。

札幌市との関係では、2月25日、実行委員会予定メンバーで、介護保険課を訪問し、札幌市の介護保険制度を牽引するお二人の課長が制度の内容変更や方向性について説明していただけることになり、本格的準備、参加促進行動に入ることができました。

集いの規模については当初80名参加レベルを想定しての準備でしたが、反響は予想外に大きく、制度変更への心配や不安が多いこと、そして集い開催に対す

る期待の大きさを感じました。40団体（事業所）約120名の方から参加申し込みをいただき、ほぼ全員の方が当日は会場と同時にご来場いただき、中途退席もほとんどなく、大変よい雰囲気になったと満足しています。

寄せられた感想からも、「参加してよかった」と言っていただけの集いになったのだと思いますが、丹尾課長、岡島課長の説明がわかりやすく、利用者や事業者の目線で方向性を捉え、今度の制度運用に市民参加の可能性を感じさせる内容にあったからだと思いますし、その点では、リレートークと噛み合う流れを感じたこと、そして、コメンテーターの渡部さんの評価と課題整理も素晴らしく、「腑に落ちる」内容でした。北海道たすけあいワーカーズ井端理事の閉会挨拶は、この集いを契機に、行政や多くのネットワーク仲間と協同し、連帯して考え行動できるとの確信を持った、との大団円にふさわしい内容であったと言えます。

